

第1回静岡市立小・中学校の適正規模・適正配置方針改定検討会 議事録

1 日時

令和4年6月30日(木)10時～12時

2 場所

清水庁舎 302 会議室

3 出席者

【委員】

島田委員、堀井委員、中村委員、隅倉委員、溝口委員、堀住委員、新聞委員、柴田委員、岡村委員（欠席者：岡崎委員）

【事務局】

中村教育局次長、栗田教育調整監、加藤教育総務課長、中野参事兼課長補佐、藤澤主任主事

4 傍聴者 なし

5 委嘱状・任命書の交付

教育長代理として中村局次長より出席委員へ手渡し（欠席者には後日郵送）

6 会長・副会長の選出

委員の推薦により島田委員を会長に選出後、島田会長より副会長に堀井委員を指名

7 事務局説明

- ・ 静岡市立小・中学校の適正規模・適正配置方針（現方針）について
- ・ 適正規模・適正配置のこれまでの取組について
- ・ 今回の方針改定に至る経緯について
- ・ 適正規模の定義（平成24年度答申）

8 協議事項

（1）本市の適正規模・適正配置の基本的な考え方、取り組む優先度について

事務局	【資料説明】
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大川地区は小中一貫校化し、移住促進に取り組んでいるが、保護者同士の問題や中学卒業のタイミングなど、転入してもすぐ転出してしまうためなかなか定住していない。 ・ 服織を除いた藁科地区全体で、藁科中学への統合を検討しているが、統合後の保護者・地域の関係性は難しいと感じている。
隅倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い保護者はハザードマップ等を確認し、安全な地域に移り住んでいるので、清水小学区の少子化は特に防災面が影響していると考えている。 ・ 津波浸水地域などの防災面を優先度の視点に入れても良いのではないかと。
溝口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校統合によって1つになると、保護者同士の意見がまとまりにくい傾向にある。 ・ 今後、統合が予定されている地区については、事前に学校行事だけでなく

堀住委員	<p>PTA 行事なども一緒に行うなど、数年度に備えてすり合わせておくとよいと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では小中一貫教育のカリキュラムに取り組んでいるが、小中一貫グループ校や統合で一つの学校になった場合、子ども自身の認識を高める上では家庭での考えも大切。 ・安倍川中学校では人数規模の割に不登校の生徒が多く、適正な規模でコミュニケーション能力を磨くことが大切と考え、5月に安倍中グループの要望を提出した。 ・平成 24 年の答申当時に駒形小の PTA 会長をしており、地域・PTA も反発があった。 ・子どもの人数や施設の老朽化の状況に加えて、地域の理解や協力状況についても視点に入れても良いのではないかと。
新聞委員	<ul style="list-style-type: none"> ・隅倉委員と同様、小学校入学の際、保護者は地域の安全性を考慮して学区を選択する傾向があるので、優先度の考えに津波や土砂災害などの防災面を取り入れてほしい。 ・今後、少子化が進むと、学校は保護者から選ばれるようになるので、さらに地域での偏りが生じるのではないかと。 ・そもそも学級数はなぜ 35 人学級としているのか。1 学級あたり 40 人以上の時代もあったが、今は少ない学級人数を望んでいる保護者もいる。35 人学級として定義づけられているのはわかるが、アンケートでも 1 学級当たりの人数をぜひ聞いてほしい。
柴田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「安心・安全な学校」は教育面と安全面の両方を考える必要がある。 ・1 学級あたりの人数は確かにクラスで差異はあるものだが、やはり視点として「学級数」は一つの数値として理解しやすく、相対的にも一つの基準としてなりえるものだと考えている。 ・ただし、学級数が増えることによって、どのように教育の質が向上し、子どもたちの学びが深まるのか、学校側として広報していくことが大切。 ・今年度から全市で小中一貫教育がスタートし、転換期として保護者や市民においても、小中一貫グループ校での視点も必要だと思っている。
岡村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、学級数が視点の最優先と考え、その次に、立地や地域の要望などが連なっているイメージを持っている。 ・学校現場ではオンラインでの活動も行っているが、やはり対面の行事などが日常生活の中で重要と考えている。 ・小規模校に通っていた子どもが高校に進学するとなじめないケースもある。

堀井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・安東中学校区は特に学区が入り組んでいるので、小中一貫教育の教育課程など全てを同じにすることは難しいので選択制という形で各学校の繋がりを持っている。 ・通学区域が改善されれば小中一貫教育もやりやすくなるが、地域の要望や合意が必要になるので、なかなか難しいだろう。 ・小中一貫教育グループ校での考え方を視点の一つに取り入れてはどうか。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員のそれぞれの話を伺い、難しさを感じている。 ・防災や建物の立地条件の捉え方、PTA や保護者など学校を支える家庭・地域の中で、コミュニティ・スクールや小中一貫教育のソフトの考え方など必要と感じている。 ・理想的な学校が、今後選ばれる学校になっていくという考えが大事だと考えている。

(2) 保護者アンケート、地域・PTA へのヒアリングについて

事務局	<p>【資料説明】</p>
溝口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・山間地などには少ない学級がよい思っている保護者や、大規模校であっても学校のレベルで選択している保護者もいるので、「適正規模」の記載はない方がよい。
新聞委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者目線では、タイトルなどどれだけ子どもに関わっているかのアンケートであるか理解してもらうことが大切。 ・回答にかかる時間数や何問あるのかの記載が必要。 ・問4：現在の学級より多い学級数を望む場合の選択肢に、「1学級あたりの人数の見直し」を入れてほしい。
堀住委員	<ul style="list-style-type: none"> ・適正規模や専門的な用語はかみ砕いて説明してほしい。 ・シングルアンサーだけでなく、オープンアンサーも設けてほしい。

隅倉委員	・保護者アンケート以外にも、地域へもヒアリングもしていくのか。
中村委員	・PTAの方が想いは強いので、それを踏まえて自治会にもヒアリングをすることで良いのではないか。
柴田委員	・問6：重視すべき点（優先して考えること）に「防災」も加えてほしい。 ・問3：選択した理由について、小規模校・大規模校のメリットの表記を限定的でなく、柔軟な表現になるよう言葉を精査してほしい。
岡村委員	・小・中学校の保護者に対して、「自分の子ども」を基準に考えるのかどうか。わが子に限定するのか、今の子どもを想定してということになるのか。
事務局	「その家庭」の考え方でお願いしたい。
岡村委員	・問8の選択肢の「グローバル人材」や「しずおか学」の用語が保護者に伝わるように記載してほしい。
堀井委員	・適正規模・適正配置や学校統廃合を検討する上で、望ましい学級数を聞くことは重要。
島田委員	・牧之原市では「望ましい教育環境」の表現で適正規模のアンケート調査をしていた。 ・問3：単学級や複式学級の選択肢も用意してはどうか。 ・保護者アンケート前に、再度一度委員の方にも見ていただければと思う。
事務局	【資料説明】
中村委員 及び隅倉 委員	・地域へのヒアリングをすることについては了承した。アンケートも検討してほしい。

9 事務連絡

10 閉会

静岡市立小・中学校の適正規模・適正配置方針改定検討会

会議録署名人 _____